The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	癌と人 第41号 目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 2014, 41
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/36977
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

◎題　字◎

公益財団法人　大阪癌研究会
元理事長　千　代　賢　治

＊表紙絵解説

「蟹」のいわれ

蟹の絵は川俣順一大阪大学名誉教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに，今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられていた言葉で，蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病気（癌）の格好が蟹に似ていたのでそれを呼び名とした。

今日，欧米では日本でいう癌をカルチノーマと呼んでいる。それはカルキノスという言葉からきたもので，両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス（蟹）という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。

第41号　目　　次

ごあいさつ……1
田口　鐵男
タバコ規制50年……2
田口　鐵男
ピエール・キュリーの足跡……5
小塚　隆弘
放射線発がんのリスク
～リスクコミュニケーションはなぜ成功しないか～…10
中村　仁信
影あって光きわだつ……13
小川　道雄
増えている重複（多重）がん
（PET/CT検査の効用）……17
髙見　元敞
わが国の乳がん死亡率は減少に向かうのか？…21
稲治　英生
がん検診はなぜ毎年受ける必要があるのか？…25
阪本　康夫
がんの外科医者がたどった
脳腫瘍手術後七年の足跡……29
藤田　昌英
真実を伝えることの大切さ……36
越村　利恵
造血器腫瘍発症における
ポリコーム複合体PRC2構成因子EEDの機能解析…40
上田　健
骨髄異形成症候群における造血支持細胞の
異常および病態解明……41
小原　直
In vivo イメージング技術を用いた核小体ストレス応答の
制御機構と発癌における役割の解明……43
河原　康一
ホモピペラジン化合物による
新規プロテアソーム阻害剤経口薬の開発…44
菊池　次郎
新規癌治療戦略開発を目指した
分裂後期促進複合体（APC/C）の活性制御機構解明…46
國仲　慎治
癌抑制遺伝子型microRNAの
機能的スクリーニングと核酸医薬への応用…47
小崎　健一
新規の転写伸長制御因子Med26と
急性白血病との関わりについての研究……48
高橋　秀尚
癌と炎症の関係の解明に向けて……50
村上　正晃
新たな結核菌受容体を介する抗腫瘍活性増強の試み…52
山崎　晶
インターフェロン誘導性遺伝子GBPの
発癌機構・癌細胞浸潤機構における役割の解明…53
山本　雅裕
癌の高精度迅速診断システムの開発を目指して…57
吉村　健太郎
大腸癌の発生・進展における
核膜孔複合体因子の役割の解析……58
Richard Wong
・平成24年度事業報告……60
・平成24年度収支計算書等……63
・平成25年度寄付者ご芳名……69
・平成26年度事業計画書……70
・平成26年度収支予算書……71
・公益財団法人大阪癌研究会 役員名簿……73
・公益財団法人大阪癌研究会 定款……74